

平成 30 年度 第 1 回宮崎県立農業大学校外部評価委員会 議事録

平成 30 年度第 1 回宮崎県立農業大学校外部評価委員会を開催しましたのでお知らせいたします。

会議の概要

1. 日 時

平成 30 年 6 月 5 日 (火) 10:30~11:30

2. 場 所

宮崎県立農業大学校 会議室

3. 出資者

(1) 外部評価委員 9 名

三田井委員長、香川委員、黒木(覚)委員、黒木(美)委員、坂本委員、杉松委員、萩原委員
横山委員、徳留委員

(2) 県立農業大学校職員 9 名

校長、副校長(総括)、副校長(教育)、総務課主幹、農学科長、畜産学科長、農学科教授
教務学生課准教授(2名)

4. 議事の内容

【説明】学科改編、新教育計画について(校長及び事務局から)

【協議】本年度の学校経営方針及び評価項目について

協議の結果、案のとおり承認された。

5. 要旨(委員からの主な意見)

- ・キャリア教育は全員受講するのか。
→インターンシップは全員受講する。その他、選択科目になっているものは、必要な学生がそれぞれ選択して受講する。
- ・資格取得について、農業技術検定、農業簿記、大型特殊免許は基本的に全員取得している。その他、学科専攻で必要なもの、進路決定に有利になるものを積極的に取得している。
- ・フードビジネスに関して貢献させて頂きたい。鍋合戦にも農大校生が参加するようになり、活気ができた。昨年は優勝してもいいくらいの出来栄であった。
- ・宮崎農大の特色、設備上の利点はどんなものがあるのか？
→全国的な傾向でもあるが、普通科出身の学生も増えてきている。これまで農業を勉強していない学生にも1年前期で広く農業について学習させ、その間に自分の専攻を決めるシステムに変えた。また、フードビジネス専攻、養豚専攻を新しく設置した。今後も教育内容をレベルアップしていきたい。
科学公園を含めると100ヘクタール弱の敷地があり、非常に広い。チャレンジファームの大区画ほ場では機械化した農業、先進的な農業を学習することができる。
- ・職員の指導力向上に取り組んでいるとのことだが、農業高校では授業公開を行っている。ぜひ見に来ていただき、指導力向上という面で利用していただきたいと思う。
- ・農大校から実習助手の教育実習を受け入れた(高鍋農業高校)。教諭職の教育実習は以前からあるが、実習助手の教育実習は農大独自の取り組みである。高校の受け入れは総合実習を中心に行う予定。
- ・GAPは地域で取り組んで行くことが重要と考える。海外輸出するにはGAPが必須であり、今後は大切なこと。GAP取得というより、GAPをすることが重要。いつでも取得できるという体制をとっておくべきである。
- ・退学をした学生はどのような理由で退学したのか？
→それぞれに理由は異なるが、学校や人間関係が合わなかったなど。毎年平均3名ほど進路変更している。昨年入学した学生は今のところ退学者なし。